

新町屋台の歴史と
昔の福崎の川の東西の
地域交流について

新 6年3組 志水栄

(調べた重カ機)

きっかけは、ささいなことからです。

ぼくは、新町の屋台はずとみこしたと思っていました。でも、お父さんがひいおじいちゃんから「昔新町の屋台は、ふとんやたんか」と聞いたことがあるそうです。それを聞いてとてもびっくりしたのと、それが本当なのか矢口りたいと思いました。調べ進めると金令の森神社(辻川)の上棟式に
なぜか新町の屋台が川の西側から山崎と共に招待されていたことが分かったり、交通の十字路・福崎と共にある市川の水運に関連する歴史が出てきたりと興味深かったのもこのテーマを選びました。

● 当時のことを調べていくにつれて、大正時代に新町屋台
が鈴の森神社の上棟式に山崎とともに招待されたこと
がわかり、その資料を調べたら何か手がかりがあるかもしれな
いと思います。



金令の^木神社 上棟式 大正9年(1920) 10/15~10/19までの5日間

招待村

亀坪・加治谷・大門・北野・田尻・西光寺・中嶋

長目・八反田・吉田・八幡・福崎新・山崎の13ヶ村

★各村共練物(福興などを中心とした祭礼行列。またその行列の

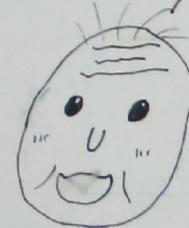
山車、屋台、山鉦などのこと)造込(造り物を奉納すること)をなす。

★練物は、北野・長目・大門は屋台を買い求め、吉田は新言周、中嶋の女口きは

練物当日朝買入れ 他は自村にて作りし物。造り物(伝説や歴史物語

芝居を題材にした、総社の三ツ山祭では残る)の女口きは各村共

競争的にして実に見事なる物斗なり。



ひいおじいちゃん6才

15日 宮入順番は抽選の結果

- ①吉田 ②亀坪 ③八反田 ④加治谷 ⑤田尻 ⑥長目 ⑦山崎
⑧八幡 ⑨北野 ⑩大門 ⑪中山島 ⑫新町 ⑬西光寺

*井ノ口・辻川の順序に役場前を起点とし県道を北へ
川順次午前11時集合の上練込をなす。 *金命の森神社の氏子

17日 氏神例祭に付き11時各小屋を出て練込をなす。

新町・山崎は自村々郷社(二の宮神社)へ練込に付き一時
り帰り翌18日来ることとす。当時の神崎橋は重量制限
があ、たためか屋台は、吉田の瀬をかついで渡ったそうぞ。

「民俗学のふるさと辻川」より抜粋

(伊藤 源五氏 伝聞)



- 上棟式の宮入りの写真に新町屋台が写っているか宮入りの順番を見ながら

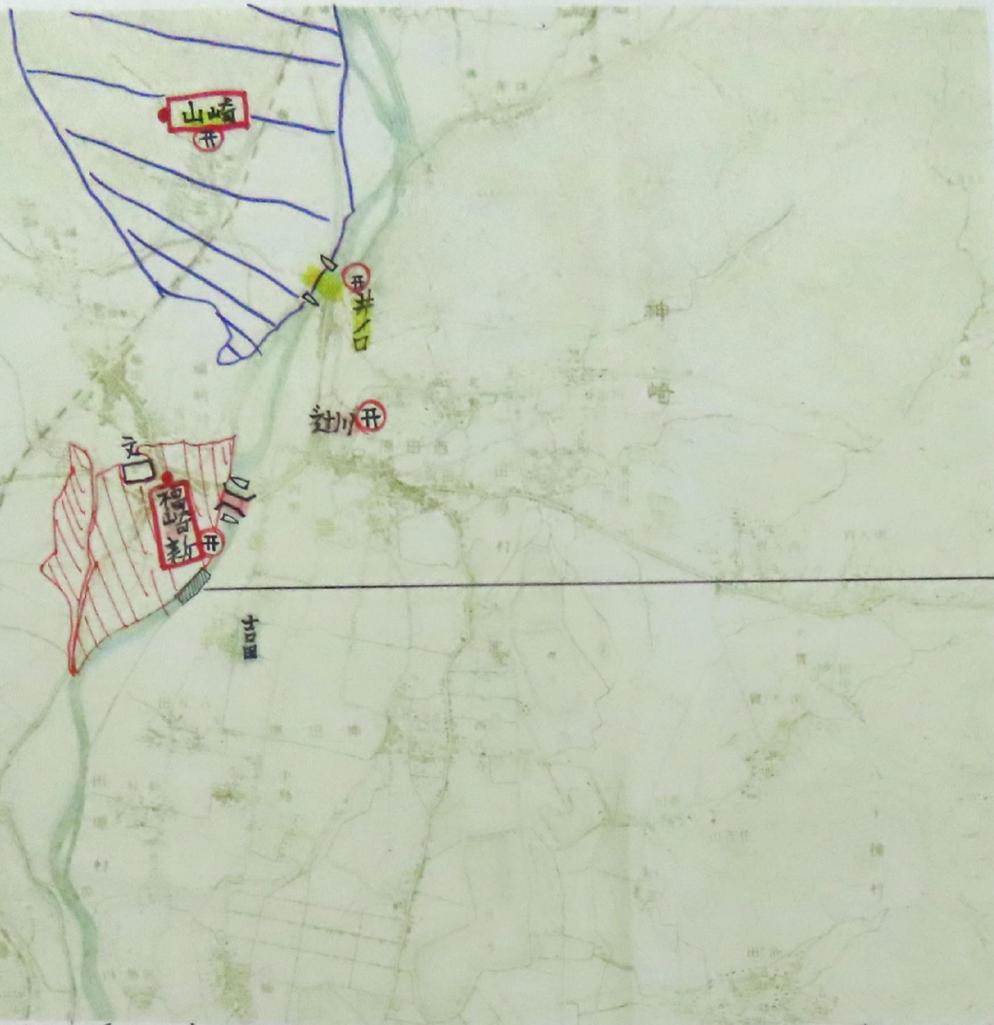
- 「福崎町史4巻」
- 「民族学のふるさと辻川」
- 「ふるさとだいもん」
- 「西光寺屋台の歩み」
- 「福崎町教育委員会資料」

を参考に各屋台を予想した結果、
(確かではありません)

残念ながら新町の屋台はこの写真には写っていないように思いました。

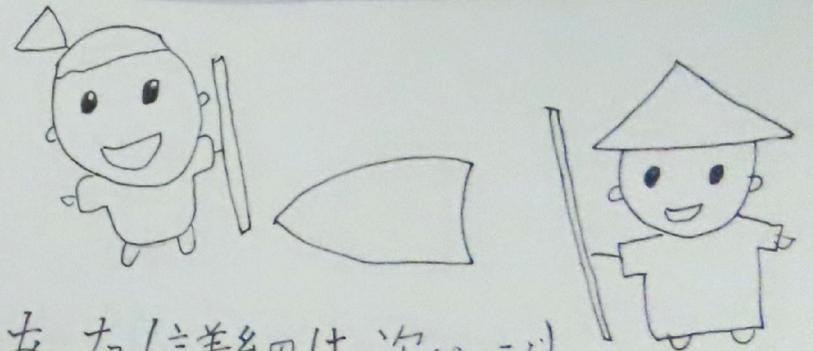
結果として新町屋台は布団屋台であったかということは今回わかりませんでした。しかしここで「なぜ上棟式に川の西から山崎と新町が招待されたのか不思議に思い少し調べてみました。」

村の位置関係としてどちらも
川沿いにある。



※ 上横式の時、屋台が渡ったと
される吉田の浅瀬。

神崎橋は重量オーバーであったためか
新町屋台は通行できずに担いで
渡ったとされる。



〈福崎町史第二巻 大正の福崎とその周辺の地形図〉

。古くから両村と東側(田原)は舟による行き来があった(詳細は、次ページ)

(山崎・新町)

おそらく渡し舟(高瀬舟)による物資 人の往来による付き合いが
あったから招待されたのではなかろうかと思いました。

予想

舟運 ~ 市川の渡し舟

寛永3年(1626) ~ 明治初期(1868)まで
物資輸送として高瀬舟や大きな役割を担う

月見橋
(吊り橋)

S22(1947) 架橋後も
しばらく航行 (S20年代)

神崎橋 — 文政期(1818~1830) 横渡し
大正時代(1912~1926)に木橋
昭和6年(1931)に鉄の橋となり舟は、
役目を終える

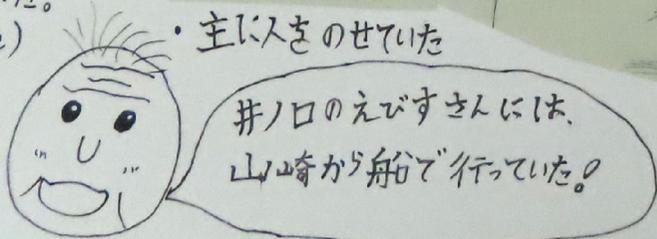


井ノ口村の渡し場付近

主に荷物をのせていた。
(たまに入ものをしていた)

福崎新村の渡し場付近

主に入さのせていた



市川の舟運と高瀬舟
福崎町HP より

感想

最初は単純な疑問からはじめた自由研究でしたが、調べるにつれ自分たちが住む村はもちろんのこと同じ福崎町でもふだんあまり知らなかったことのない東側田原地区のことも学ぶことが出来ました。限られた時間だったので一番知りたかったことにはたどり着けなかったけど、まだまだ知りたいたい色々教えてほしいと思いました。そしてぼくもひいおじいちゃんや教えてくれた人たちのように子供や孫の世代に知っていていけることを伝えていけたらと思います。